

令和7年度（2025年度）熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 令和7年（2025年）8月19日（火）

午後2時00分～

会場 熊本市立図書館 2階 集会室

■熊本市立図書館協議会委員

《出席者》 9 人

桑原 芳哉	委員（会長）
藤井 美保	委員（副会長）
鶴田 由美	委員
桃崎 佐知子	委員
石黒 義也	委員
鎌田 文代	委員
塚本 綾	委員
工藤 純子	委員
水之江 翔太	委員

《欠席者》 1 人

光野 裕子	委員
-------	----

■傍聴者 0 人

■熊本市側

《出席者》 1 2 人

古家	熊本市立図書館長
緒續	とみあい図書館長
西村	植木図書館長
松田	城南図書館長
平川	くまもと森都心プラザ図書館マネージャー

（事務局）

岩永館長補佐	（熊本市立図書館）
村上主幹	（ 〃 ）
松里主幹	（ 〃 ）
岩野主幹	（ 〃 ）
福岡主幹	（ 〃 ）
藤原参事	（ 〃 ）
森江主任主事	（ 〃 ）

令和7年度（2025年度） 熊本市立図書館協議会 議事録

1 開会

2 熊本市立図書館長挨拶

3 委員・職員紹介

4 議事

議題1 令和6年度（2024年度）図書館の事業報告について

議題2 令和7年度（2025年度）図書館の主な取組について

5 その他

6 閉会

挨拶、委員・職員自己紹介

【議事】

議題1 令和6年度（2024年度）図書館の事業報告について（資料1）

（事務局より説明）

委員 蔵書数について伺います。この本の数というところに関しては、目標を設定して増やされているのか。蔵書の目標のようなものが設定されているのか。今年入れた本の数というのが、実際に、それに対してどうだったということについて伺いたと思います。

事務局 蔵書につきましては、実はもう蔵書するスペースが、各館ともかなりいっぱいになっております。8割から9割程度、本を持っているということになっております。そのため、現在、蔵書を大幅に増やすという予定はございません。買い替えや見直し等々行いまして、適正な本を入れていきたいと考えております。新規の本につきましては、今年度は新規の図書等々含めまして、3万9,000冊ほど新たに蔵書として入れております。その中から、予算等々の整理をしながら、本があふれないように、そしてまた新しい本が常に図書館に並ぶようにという当初計画をしております。

委員 この資料から読み取れなかった部分も説明いただき、もう頭打ちになっているので、なかなか難しいところだというふうに理解しました。

委員 2ページで貸出者数は増えているが1人の貸出冊数は減っているということですが、やはり本に馴染むためには、まず貸出者数を増やすことに重点を置かれた方が良くと思います。例えばですけれども、学校でしたら「学校の図書館はここにありますよ」とか、場所や借り方の説明を各校でされていると思うのですが、「近隣の図書館はここにあって、こんなふうに借りられますよ」という説明は、各小学校から高校においては、実施されているのでしょうか。もしくは、各図書館から各学校にお知らせをするなど、学校と図書館の間に連携している取り組みのようなものは、あるのでしょうか。

委員 うちの小学校は、森都心プラザのものすごく近くにありますが、残念ながら道を隔てていて、校区外になります。小学生は自分で校区外に行くことはできないので、とても残念なんです。森都心プラザのことは、うちの職員が、全校集会で1回お話をしました。私も終業式の話のときに、ぜひおうちの方と一緒に、借りに行きましょう。行ってみてくださいということで、紹介をしております。また近隣の町探検で、森都心プラザも昨年度3年生が行かせてもらったという経緯がございます。

事務局 ダイレクトなお答えになるかどうかちょっとわかりませんが、一応、学校の図書

館システムと市立図書館等の公共の図書館システムは連携しておりますので、こういう本を読みたいんだけど、学校のシステムで検索をすると、本は探せるようになっておりますので、そういうのを探しながら、学校と公立の図書館と図書配送のやりとりをしながら、子どもたちが読むということは、今までもやってきていることになります。

委員 個人的に思うのは、デジタルの画面の中で本の表紙と名前は見ることは出来ると思うのですが、実際に図書館で膨大な数の紙の本を手にとって、どんな本を読もうかなと本を探すのは、またちょっと次元が違うと思います。自分が読みたい本を小さな画面の中から探すのではなくて、本を手にとれる図書館に行って実物の本を見ながら自分で興味がわき、読んでみたいという気持ちを持って貰うことを大事にしてあげたほうがいいのではないかなと思うので、子どもに対して図書館に出向けるような施策を図書館側においても勘案して頂ければと思います。

委員 貸出冊数、2 ページの資料ですが、城南図書館で増加の数がすごく増えているというところがありますけど、これがどういうことでこの増加になっているかというところを説明願います。

事務局 令和6年度の貸出冊数が増加した理由でございますが、冒頭に市立図書館長から説明があったと思いますが、令和5年度に当館が大規模な天井の改修工事がありまして、こちらの影響で、一部、閲覧室が使えないということで縮小し、貸出サービスを行いました。その結果、やはり今まで通常通りこられた方々が令和5年度が利用が減ったというところがあります。令和6年度になりますと、4月1日から、こちらが解除されまして、通常通りの利用がされたということで、令和6年度から徐々に徐々に戻ってきて、利用がこの28.1%の増加に繋がるというところがございます。

委員 大規模工事改修前の貸出冊数からすると大きく増えているというか、むしろまだ減っているというところですか。

事務局 令和6年度に関しては、まだ回復の途中というところでありまして、今年度に入りまして、令和4年度並みの量に戻っているというところで、やはり1年間ぐらい、しっかりと時間がかかるのかなというふうに感じたところです。

委員 電子図書館についてお尋ねしたいんですけども、こちら圧倒的に小中学生の利用が多いということなんですけれども、それ以外の年代での利用が少ないというその理由として、何か考えられるものがあるようでしたら教えていただきたいです。

委員 電子図書館の小中学生以外が少ないということなんですけれども、少ないというよりも割合が少ないということで、利用件数からすると、今年に比べて、そこまで少ないという状態ではありません。ただ1つは要因を考えるとしたら、実際使わ

れている方が、小中学生が9割を占めておりますので、図書館のトップページは、児童生徒向けのお知らせや特集がかなり多くなっておりますので、こちらがより借りやすくなっているという状況はあると考えております。

委員 どちらが先なのかわかりませんが、小中学生の利用が多いので小中学生向けのタイトルが多くなれば、また小中学生がたくさん借りるっていうふうなこともあると思うんですけども、今日も私来るのに、第2駐車場も結構いっぱい、そういう状況だと直接来るのも来にくいと。でも、電子図書館だったら、割と自宅から気軽に使うことが出来るっていうようなメリットもものすごく大きいものがあると思うんですよね。小中学生でない、それ以外の年代の利用が少ない、ここをもうちょっと何か利用促進するような方法を考えられたらどうなのかなあと思います。そして、やっぱり高齢の方になってくると、デジタルICT活用の問題で、電子図書館が利用しにくいということはあるのかなあと思います。公民館では、わりといろいろと高校生とか巻き込んで、そういうICT講座みたいなのがやられてるようなんですけども、そういうところの一環として、電子図書館は、こんなふうにして使えますよみたいなことを、公民館のなかに公民館図書室もあるので、そういったようなことをされてもいいんじゃないかなあというふうに思いました。

事務局 今、高齢者の方への電子図書館のご紹介ご案内があればということですが、昨年度、市立図書館で電子図書館の使い方講座というものを1度開いてみました。大変好評でした。けれども、只今、委員からご意見があったように今後は公民館ですとかもう少し身近なところでも、そういったものが広げられないかどうか検討したいと思います。

委員 補足しますと、これ前にもお話したことあるかなと思うんですが、今、図書館で使える電子図書館に含まれる資料が、いわゆるそのベストセラーとか人気がある作家の小説とかは一切含まれていないっていうのがあります。それは出版社側が、認めていないという状況なので、これ熊本に限らず、全国どこの公立図書館の電子図書館もそうなんです。従ってなかなか電子図書館が使えると思って、大人の人が見ても、そんなに読みたい本がないなあというのが、正直なところではあります。これは、熊本に限らずどこでもそういう状況があるので、なかなか大人の方、一般の方に、利用促進するっていうのは正直難しいところがあるんですが、いろんな形で、逆に言うとなかなか普段、一般の本屋さんとか図書館では、手に取れないような本も含まれているので、まずこういった本があるよっていうようなPRをどこかでやっていただけるといいんじゃないかなと思います。

委員 ボランティアの立場から一言申し上げたいと思います。電子図書について、私たちもとても関心を持ちながらも、悩ましいところで推移しています。電子図書を子どもたちが読めば、図書館に足を向けることがなくなります。今、お話をし

ていまして、赤ちゃん連れか、年長さんとか、近頃は、お父さんも聞きにいらっしやるんです。この前も親子4人で聞きに来てくださいました。そしたらどうしてもやっぱり帰りには本を1人10冊借りて帰れますからね。そういうところで個々の貸出冊数も増えてくるし、来館者数も増えるんですけど、電子図書にしましたら、これが全然入らないんです。だからそういうところで、電子図書が広まると数字に出てこないものがあると思います。それから、この統計の7ページ、ポイントの④の「軽く読めるものが好まれる傾向にある」についてですが、子ども達だけに選ばせているとやはり普通の一般の紙の本でも、そういうのが子ども達喜びます。だから、私たちは、子ども達が1人でもいい本に出合うようにと思ってボランティアをしているわけですが、電子図書になると、子ども中心で選ぶから、なかなか中身まではチェックできないというところもあります。もうひとつ電子図書については、学校でタブレットを中心の授業になっているということで、非常に目を悪くしている子どもが多いです。私の家は眼科の医院をしています、やっぱり子ども達は、目が悪くなるのがとても早いです。だから、学校ではそうしているけれど家に帰ってからは、タブレットから目を離すとかそういうこともするのもひとつかなと思って、ここに足を運んでもらうように、子ども達には何か案内指導していただけたらと思います。私たちもおはなし会をするのに、子ども達が、「今日、おはなし会があつてるよ」って楽しみにしてきてくれるようなことを、やっていかなければならないと思っております。これはあとの図書館のこれからについても、ちょっとお話をしていきたいと思えます。

議題2 令和7年度（2025年度）図書館の主な取組について（資料2）

（事務局より説明）

- 委員 4ページの図書装備作業についてお尋ねします。図書装備作業の作業というのはどういうことをするのでしょうか。
- 事務局 今、お願いしております図書装備作業は、本が傷まないように透明のシートをつける作業をお願いしております。
- 委員 図書にバーコードとかつけてありますね。あんなのはしないんですか。カバーをつけるだけなんですか。
- 事務局 今は、委託している業務としてはカバーをつけるだけで、その他の業務は、こちらのほうで行っております。
- 委員 私、病院でボランティアをしています。その中のひとつに、衛生材料っていう部門があって、ガーゼやら規定の大きさに切ってパッケージして、消毒して各病棟に回すっていう作業があるんです。これはもう本来はやっぱり職員の方が設置

しなくちゃならないんですけど、やっぱりあそこも人手が足りないということで、もう50年以上そういう作業をボランティアでさせていらっしゃるんです。とても役立って助かっているっておっしゃってるんです。図書装備の作業もボランティアさんでは出来ないのかなあとと思いますけどいかがでしょうか。

事務局 図書館、毎週かなりの数の本が入りますので、装備は技術が必要で、現在は、ボランティアさんの活用は考えておりません。

委員 福祉施設に装備委託を今なさってる、その福祉施設はどういう施設なんでしょうか

事務局 就労支援事業を運営している施設です。

委員 ボランティアで、それはできない作業でしょうか。リーダーさんを何人か養成して、そして、その方たちが指導しながらしていくっていうようにしたらいかがでしょうか。いつもここに来て、皆さん人手が足りなくてですね、私たち職員の方を捕まえるのも大変なんです。これからボランティアさんの活用も、考えていかれたらいいかなと思います。よろしくお願いします。

委員 1ページ目の図書システムの更新について伺います。次期システムの新機能の「目標冊数を設定する読書チャレンジ」というところ、こういうチャレンジがあると私の子どもも何かこう励みになるのかもしれないんですけども、やっぱりスマートフォンとかタブレット端末ってなったときに、なかなかすぐに、今でも子どももタブレットを持って連携しているからできるのかもしれないんですけど、これチャレンジの設定というところは、どんな世代をターゲットにして作られているのかという点と、あとどうしても読んだっていうだけだとそんなに使うことがないものが、結構、本だけじゃなくてこういうのは多いんですけども、何かその達成することによって、何かこうプラスになるようなものをつけられるようなシステムなのか。ただ、もうただ本を読んだら、「達成した」、「頑張ったね」ぐらいが分かる機能なのかっていうところですけど、何か活きたものになるというところでの質問です。このシステムについて教えていただければと思います。

事務局 読書チャレンジの機能につきましてですけれども現在の熊本市で6万人の小中学生がいてタブレット端末がある。その子たちがまずは取っつきやすいのかなっていうふうな機能だと理解しています。あと先ほど目標達成したときのインセンティブの話があったんですけど、特段まだそういったところまで準備が多分できてないようなところです。

委員 ありがとうございます。ぜひ子どもも利用しやすく、続けるものになるといいのかなと思ったところでの質問でした。今のご説明で、もう大丈夫です。

事務局 補足いたします。読書チャレンジは、最初に設定したときは「ひごまる」君、普通の格好してるんですけども、特定の数値に達しますと「ヤッター」というポ

ーズになって花吹雪がでるという設計になっております。

委員 図書館の目標として、子どものなかで図書館リーダーみたいな書籍リーダーというのを作っていくって、昨年度参加したときに、今後のところで、より子どものなかで自発的に図書を推薦するような取り組みをされるということが確かあったと思うんですけど、こういうものがうまく紐づいていくといいのかなと思ってるの質問でした。もう1点、質問させていただきます。Web書棚というのがちょっとイメージが出来なかったのも、まだ、導入時期で申し訳ないですが、もう少し説明をお願いします。

事務局 これにつきましてはちょっと幾つかの都市の図書館で、すでにやってまして、いわゆる背表紙が出ていて表紙が見える、そういった機能がある状態です。

委員 少しでも本を借りているところがイメージしやすいってというような、コンセプトで作られてるのかなと思いますので、わかりましたありがとうございます。

委員 2ページの「近隣市町村との相互利用」について質問です。私は、近隣市町村に住んでいます。熊本市に居た時は、熊本市本館以外の蔵書でも予約を入れたら熊本市本館で借りられるシステムで助かっていました。現在は、熊本市の近隣図書館との相互利用により、パソコンで予約を入れて、熊本市本館に蔵書を取りに行行って借りているのですけれども、その本を近隣市町村まで持って来て貰うことは出来ないのでしょうか。

事務局 それは出来ないようになっています。

委員 熊本市本館には、いろんな図書館からの本を持ってくることは出来るというシステムですか。

事務局 近隣市町村との図書館の相互利用につきましては、利用される方が、利用したい自治体の図書館へ行っていただきまして、ご自身で借りたり、返却したりをしていただくという内容になっております。図書館同士で行う、ほかの自治体の図書館の本を熊本市の図書館からお貸しするサービスとは、違うサービスになっております。ご利用されたい方が、利用したい他の自治体の図書館に実際に行っていただくというのが前提になっております。

委員 熊本市本館にない蔵書は熊本市本館まで持って来てくれるというサービスが今あってますでしょ。ですが、熊本市の蔵書を近隣市町村の図書館に持って行くことまではやっていないということでしょうか。熊本市内だと蔵書のやり取りは出来るけれど、近隣市町村まで持って行けないということですか。

事務局 相互利用は、近隣市町村の方が熊本市の図書館を利用できるというシステムなので、向こうの方が、こちらに来て、図書カードを作って利用できます。熊本市内の図書館の本の予約ができる。取り寄せができる。熊本市内の図書館に来て、利用するという意味ですので、どこの図書館の本を取り寄せるという意味ではなく、熊本市以外に住んでる方も、熊本市の図書館を利用出来るという意味です。

- 委員 うちの公民館でも子育て支援ネットワーク会議というので、0歳児とその母親を対象にして、年2回、読み聞かせとか童歌とかそういうことをやっています。熊本市の子ども読書活動推進計画というのが、まだ進んでますよね。あのなかで、とにかく家庭・地域・学校における子どもの読書活動を推進しようというのが、図書館の1つの役割だと思ってます。そのなかで、「このほんよんで」という冊子を赤ちゃんのいる、乳幼児のいる家庭に配布するという活動をされてましたよね。今もそれは続いていると思いますが、そのなかに「このほんよんで」という本を、母親たち、保護者が、どのくらい借りに来たかということの精査もやはりして欲しいと思うんです。その本がどれだけ貸し出されているかと。それでなければ、何のために、この冊子を赤ちゃんが生まれた家庭に配ったかということが、意味が薄れてしまうというふうに思います。これは私の希望として、もし調査をしてなかったら、ぜひ調査もして、今後に生かしていただきたいというふうに思っております。
- 事務局 蔵書数については、把握しておりますが、回転率については、調べていない状況です。今後、調査をさせていただき、回転率を上げていくようにしていきたいとします。
- 委員 今、お話ありましたけれども、熊本市でも子ども読書活動推進計画を策定して、その計画に基づいて様々な推進活動をされていると思いますので、もし機会がありましたら、そういった推進活動計画に基づく活動状況なども、例えばこの協議会でも、ご報告いただくとか、そういうことをしていただけるとありがたいかなと思います。よろしくお願いいたします。
- 委員 3ページ電子書籍の充実について質問です。電子書籍で読むという新たな仕組みで、いろいろな本を取り入れていただいているということでありがたく思っているところです。障がいのある子どもさんの中には、自分で読むのが難しかったり、目が不自由な子どもさんもうらっしゃったりしますが、この電子書籍では、音声付きの書籍を取り入れることとかは可能かなと思います。そういうものがあったりしますか。いかがでしょうか。
- 事務局 電子書籍につきまして、音声付ということですが、書籍の種類によっては、自動読み上げ機能がついている電子書籍も多数あります。今回の読み放題シリーズのなかにもかなり音声読み上げ機能がついたものが含まれておりますので、ぜひそういったものもご利用いただければと思います。
- 委員 ありがとうございます。そういうものがあると、なかなか自分で読むのは難しい子どもさんも、本に親しむことができるのかなと思いました。
- 委員 私も電子書籍の件に関して質問させていただきます。私もKindleとかで本を読んでしまうんですけど、どうしてもそのあとリアルっていうかやっぱり実際に手にとって、本で読む良さっていうところがあるので、上手く使い分けて

るところかなと思っています。子どもたちが電子書籍に慣れてしまう。先ほど委員からありましたけど、そのまま図書館には来ずに、ただただ電子のなかで満足するっていうところ、それでもいいのかもしれないんですけども、その電子書籍と実際の図書館での実際の本っていうところの触れ合いっていうところがどういう棲み分けをコンセプトとして、今、考えられてるかっていうところが気になってるところです。やっぱりもう電子書籍でもう本が好きになってくれればいいっていう考え方もひとつあるのかなとは思んですけども、熊本市の考え方としては、電子書籍もあくまでもその導入として、実際は図書館に来て欲しいと考えられているのか、電子書籍で本を好きになってもらえればいいって考えているのかという棲み分けは、どういうコンセプトで考えられているのかというところを、何か情報があればいただければと思います。

事務局 電子書籍と紙の本についての棲み分けということですが、同じ本が電子書籍と紙の本であっても実は貸出状況が全く違います。電子書籍ではかなり予約が入ってたくさん読まれてる本でも、意外と紙の本では動いてないっていう本もありますし、その逆もありまして、私どもとしては、本当は電子書籍を入れることで、紙の本に親しんでいただきたい、他のいろんな読書の世界を広げていただきたいと考えているんですけども実際の子どもさんたちの動きを見ると、紙の本が好きな方と電子書籍で読む方は、どうも違う人たちが、利用しているというような感触を受けております。ということで、やっぱりしっかりと読みたい、紙の本が読みたいという子どもさんは、電子書籍でどれだけ入れてもやっぱり紙の方がいいということでご来館いただいておりますので、どちらも期待に沿えるように、そして電子書籍に慣れ親しんだ子どもたちがですね、何らかのきっかけで、図書館で紙の本に触ってもらえるような機会が出来るように、できるだけ読書という窓口を広げていきたいと考えております。

委員 電子図書館始まってもう6年7年というところで次のステップに進むタイミングも出てくるのかなと思っていて、もし、その間口として図書館の本というのが好きになってくれるっていうんなら、私は電子図書館でもいいのかなと思う部分があるので、どういうふうな棲み分けで、どういうコンセプトでやっていくかってところが非常に重要なところかなと思いますのでいろいろとご検討いただければと思います。

委員 4ページの図書装備作業についての関連になるのかなと思いますが、まず現状のところでは設備、委託実績で令和6年度設備委託が、3,516冊そのうち福祉施設に委託したのが738冊ありますが、この設備委託の3,516冊というのは、受け入れた資料全体のどのくらいでしょうか。

事務局 新規に受入れた資料の大体1割です。

委員 そうするとこの設備委託にしている資料ってというのは何か特定の資料ですか。

具体的に言うとマークがないものとかそういったものですか。

事務局 装備委託するものは、具体的には地元の書店さんから本をそのまま購入したものと寄贈で頂いた本です。

委員 昨年の議会の請願のなかに、あとは最近の報道でもあります、結構地元の書店と図書館の関係というものが、かなり問題というか、話題になってるかなと思ひまして、熊本市内でも地域の書店がだんだんなくなっているという実態があるのかなと思います。そういった地元の書店と図書館というものの関係について、例えば熊本市でも、例えば地元の書店からの購入を増やしていこうとかですね。そういったような何か考えがあるのかないのか。そのあたりを伺いたいと思います。

事務局 昨年の請願を契機に、いろいろ検討を進めている状況でございます。今までが一般競争入札で自治体の一般的なやり方でやってきましたけれども、そちらとの絡みがありますので、どれだけ購入出来るかわからないんですけど、まず増やしていきたいと考えております。あと国の方におきましても、自治体によっては商店街に書店が1つもないところとか出てきてますので、それに対するてこ入れということで経済産業省を中心にですね、動きも出て参りまして、文科省のほうとしましては実態調査ということで、そこまでは進んでないんですけど、でもうちの場合につきましてはそういう請願もあったということもございまして、どこまで、その枠内で進めるかというところを整理させていただいている状況でございます。

委員 書店さんっていうのも非常に地域の読書活動といいますか、そういったものを支える重要な存在かなと思いますので、ぜひ、図書館と書店がいい関係が続けられるように期待したいと思いますので、よろしくお願いいたします

事務局 今の補足になりますけれども、学校図書室の分は、先ほど入札もありましたけど随意契約ができる金額というのが、学校の図書室はそもそも買える金額が低いので、99%地元の本屋さんで学校の方は買っております。

委員 図書装備のことについて、寄贈本の受け付けとかはなさってるんでしょうか。実は、私たちやっぱり自分用に絵本をたくさん集めてるんです。だけど、先日、ボランティアの仲間の人が亡くなったんです。そういう時に、その絵本がどうなるのかなあと私は思ってますね。もし寄贈が受け入れられたらいいかなあとと思うんですけど、10年ぐらい前に、紙芝居の方のボランティアさんで紙芝居を大分持ってたんですけど、その時に寄贈を受け入れしてもらえますかって聞いたら、その時の担当の方が、装備がなかなか人手が足りなくて出来ないから、寄贈を全く受け付けてないって言われたんです。だけど、せっかく資料が、バラバラになって、今メルカリじゃないですけど、それこそもう1円にされるよりも、子供たちには絵本は何冊あっても貸出が助かるんです。だからそういうの

が散逸しないように出来るようにしていただけたらなあ。今、書庫も満杯でなかなか受け入れるのが大変だと思いますけどお願いしたいと思います。

事務局 寄贈についてですけれども、寄贈は各館ごとで判断をしております。館によっては必要な本ですとか、入れられる本、入れられない本っていうのがありますので、対応しているんですけれども、本館につきましては先ほど蔵書の話でお話しましたので、どうしてもスペースの関係で、現在は熊本に関する地域資料、郷土資料のみ、寄贈でお預かりするというふうに統一で対応しておりますので、もし他の分館で、公民館図書室等々で受け入れが出来るというところがあればそちらのほうで受け入れる可能性はあるかと思います。ご期待に沿えなくて申し訳ありません。

委員 寄贈も多くの方から要望があっても、なかなか受け入れが難しいというのはあるかもしれませんが、子どもの本ですと県のほうが「こどもの本の森」ができて、そちらのほうの資料として受け入れるっていうことをしているかなと思いますので県立図書館とかにご相談いただければいいかなと思います。

その他 熊本市立図書館の機能・あり方について (資料3)

(事務局より説明)

委員 その他では、資料3「熊本市図書館の機能・あり方について」各委員より図書館の機能(設備)、図書館サービスなどでさらに充実してほしいものや、今後新規に取り入れてほしいことなどについて忌憚のない意見を出していただければと思います。説明があった資料のご質問とかでも構いません。何かございましたらお願いいたします。

委員 3ページの施設環境ですけれども、トイレが洋式になったのは有難いのですが、男性トイレはちょっと分かりませんが、女性トイレの個室トイレの部屋が狭く、個室に荷物を置くところがないので、いつも荷物を床に置かないとしょうがないので、もうちょっと工夫が出来ないでしょうか。例えば、荷物掛けを作る、荷物籠を置いてみるなど。食べる場所があったらいいという希望が出ていましたけれど、2階外側に軽食を食べられるようなスペースがあって、あれは私も何回か使わせて頂いたのですけれど、とても有り難いなと思っています。この近辺にちょっと座って食べられる場所が、もう無いんですよね。商業施設はコロナ禍以降、椅子やテーブルが無くなってしまって、ちょっと座って軽く食べて、また本を読むというのが難しくなっているので、本館2階の場所をもっと皆さんに知って貰うようにするとどうでしょうか。場所をもうちょっと広くとってみるとか、そういったことをして頂けるとすごく有難いと思っています。それと

宇城市立図書館で館内カフェっていうのを作っていらっしゃるようですが、そこはよそに委託してカフェをやっているのでしょうか。

事務局 宇城市立図書館につきましては、指定管理で管理してまして、実際にカフェが入ってるのはスターバックスが入ってます。

委員 本館が、そこまで出来るかというスペースの問題等で難しいと思うのですが、2階の飲食可能スペースをもう少し皆さんに知って貰って、使い易く改修して頂けるとさらに有難いと思います。

委員 いつも来ても思うんですが、駐車場が狭くて、もうこれどうしようもないんじゃないかなと思っているんですけど、駐車場に関しては、施策を、私は、指定管理制度で、当然カフェもあって、綺麗で明るくてっていう図書館だと今どきなとかいってもいますけど、やっぱり駐車場が、いっぱい来るんだったら多分、停められないかなと思っているので、駐車場どうにかしないといけないのかなと思っているんですけど、そこら辺は何か、ちょっとこの駐車場について、採算性の問題に至らなかったっていうところで、具体案は特になんですけど、何か検討されているのがありますか。

事務局 物理的な問題があってですね、なかなか今使ってる第2駐車場ですね。前はあそこも無くてですね、さらにもう混雑とですね職員が駐車場整理が仕事みたいになってしまったんで、あれが増えても、なかなかやっぱり160メートル距離もあって、あそこはですね暑いんです。あそここのところまで立体駐車場とかというのはなかなかちょっと現実性もなく、ちょっと物理的に今のところ駐車場対策が出来ないような話になっております。

委員 駐車場がないというところで、個人的なところ正直図書館としてのイメージとしては、こういうちょっと古くってここ、こういう図書館っていうのに慣れ親しみがあるんでやっぱり図書館ってのはこういうイメージなんですけど、やっぱりでも若い人とかからすると、やっぱりスタバが入ったり、TSUTAYAさんがやっていたりっていうのにすると当然集客が良くなるよなど。その点には駐車場があると思うんですけど、そうなるといいと思うんですけど公共性っていうのが市立図書館にあると思っていて、若い人は来てくれるかもしれないですけど、やっぱり全世代型って考えたときに、今度なかなか寄りつかなくなる皆さんもいるかなあと思うので、個人的には、当然明るくて綺麗になるといいかなと思っているのでこの④番の管理運営手法の検討というところが、ちょっと非常に難しいところではあるかなと思っているので、いろいろ検討されてるっていうところなので、以前も検討されて、実際直営のままになっていたっていうところの背景とかも含めて、どうされる、どうしていくのかっていうのが話されてるのかっていうのが、何か今検討されてるものがあったら教えていただければなと思います。

- 事務局 今すぐに何か答えはないんですけども、私もあちこち他都市の今すてきな図書館がいっぱい出来ているんですね、見せていただいて、荒尾とかですね。先ほどのスターバックスのところも行きましたけど、入った瞬間に、まず明るさが違うのかなという感じもしまして、やっぱりその新しい中に、そこが起点となっておりますね、人が集うということで、図書館の機能としてもだんだんこちらが建った昭和50年代と違って、人が集うような場所、そこが起点になるようなですね、そういう魅力を持った図書館が、今から求めていかれるのかなと。あとその和室の勉強室があったりとかですね、いろいろ各図書館、知恵を絞られて、新しい図書館のあり方というのをされているみたいですので、そちらを勉強させていただいて、こちらが新しく生まれ変わるときには、いいとこどりじゃありませんけれども、そういうところをちょっと入れていきたいなと思っているところです。
- 委員 若い人に受けるっていうのも大事ですけど、どちらかというと専門性を高めるとか、あり方のコンセプトをどう捉えるかによって方針が変わってくるのかなと思いますので、どういう図書館になりたいのかっていうところをよく範囲含めてどうあるかっていうとこ、あと、ターゲットを誰にするのか、ぜひ全世代型で皆さんに利用される市立図書館であって欲しいなと思ってますので、よろしくお願いします。
- 委員 今の駐車場に関連してなんですが、先ほど言いましたように、小学生は、自分の校区しか自由に行けない。その時に、図書館に行くときには、親に連れてきてもらうことになります。今はもう自転車とかで、2人乗りとか駄目ですので、親御さんは車で連れて来てくださるっていうことになると思います。この図書館、今、委員からもありましたように図書館自体というよりも、駐車場をですね、駐車場が何階建てたのがあってですね、やはり集客というか、子どもたちが来たくても、親御さんが「あそこは駐車場のなか。止められんもんね」って、そこでですね、ちょっと断られ、子どもが行きたいっていう気持ちが、阻まれているっていうところもあるんじゃないかなあと。反対に森都心プラザのほうはですね、駅の近くなので、交通手段が、車を使わなくてもちょっと行けるようなところになってはいるので、何かやはり親御さんが来れるような、その駐車場なり何なりの、何かシステムがあれば、子どもたちもぐーんと伸びるんじゃないかなあと。この雰囲気ですね。もちろんスタバとか入ってなくても、好きな子はとても好きです。学校の図書館も同じような感じですので、とにかく子どもたちが足を運べるような、環境になればいいなと思います。よろしくお願いします。
- 委員 ホールについてお尋ねしたいんですけど、もう随分前ですけど、ちょっとこちらのホールをもっと使わせていただくことが出来ないのかなと思って、お尋ねしたこともあるんですけど、その時に、照明だったかなんだかが、もう全くダメなので、私たちがちょっと使いたいようなことには、もう無理ですっていうような

お話があったんです。こちら3ページのちょうど真ん中②のところに「ホールのあり方」というのはあるんですけども。今も映画の上映会ぐらいは、やられてたかなと思うんですけども、そうやって、映画の上映会しかないなかで、どれぐらい利用者があったのかなとか。あともう1つは、書庫に転用と書いてあるんですけど、やっぱり足を運んでもらって、最初の方にも出てきてみたいに、紙媒体の実物の本にも、出会って欲しい触れて欲しいとかっていうことがあるなら、本をただ並べるだけではなくて、やっぱりいろんなイベントとかをやって足を運んでもらうっていうのも大事な事なのかなと思います。だとすると、元々のようなかたちのホールでなくていいと思うんですけども、もうちょっといろんなイベントに使えるような場所っていうのを作るとかですね。ホールの場所に作らなくてもいいけれども、何かこう書架の中に、割とちょっと広めにそういうイベントできるようなスペースを作るとかですね、なんかそんなふうなことを考えてもいいのかなと。このホールのあり方どう考えたらいいのかな。割と便利な場所にあるし、あんまり大きくなく、でもすごく小さくもなく、私がちょっと使わせてもらおうかなと思ったときはすごくいい感じの規模だったんですけども。そのあたり、いろいろニーズも把握したりしながら、活用を考えてもらえればなというふうに思います。

委員 この前たまたま、議会の傍聴席に座ってたんです。そしたらある議員が、ブックスタートについての質問をされました。これに関してはですね、以前から、識者の中では、熊本市も早くブックスタートを始めなくちゃいけないというのを言われていたんですけども、市長もなかなかうんというような回答はしなかったようです。ぜひ熊本市も政令指定都市だから県下の各市町村に先駆けて、先駆けてもうやってる市町村もあるわけですけども、すでに20何町村かは、ブックスタートやってますから、政令都市である熊本市がまだやってないというのが、ちょっと恥ずかしいので、どうにかここを、どこかの、力で始めるように、会長、ぜひ、お願いしたいと思っておるんですがよろしくお願いします。

委員 なかなか難しいというのは私のほうも、私が何か指導、答弁をするようで申し訳ないですが、実際、政令指定都市でやっているとところって実は少ないんですよ。全国的に見ると、福岡とあと幾つだったか、2つ3つか4つぐらいしかないと思います。全国的に私以前横浜市に居ましたが、横浜市は人口300万人を超えるような大都市で、新生児も3万人とかいるので、ブックスタートをやるとすると、何百万円ですねお金がかかってしまって、とてもそんな予算は組めないというようなことがありました。熊本市も似たような状況かなと思うので、なかなか予算的なことは難しいかと思いますが、やり方がいろいろあるので、全部、絵本2冊パックを差し上げるっていうわけではなくて、いろんなやり方があると思うんで、そのあたり研究していただくといいかなというふうに思いました。

委員 8ページの図書館に関するアンケート結果で、おはなし会や映画会などイベントの充実というのが、1番じゃなくて、10番ぐらいに入ってます。でもここでこういうのが上がってくれたっていうのはとても嬉しく思います。私たちも、100人足らずいるんですが、ボランティアさんはですね、毎月1回勉強会してますけど、やっぱり今の子どもたちの要望といいますか、なかなか追いついていけないような気もしてます。毎月毎月勉強会してますけど、十年一律のような勉強会で、新しいことを取り入れなくてはいけないと思っているんですけど、講習会とかそれから昨年もお願いしましたが、ボランティア総会をしていただきたいっていうのを去年していただきましたけど、ボランティア総会も図書館からの一方的な説明に終わりました。そうじゃなくてお互いがどのようにして、子どもたちを、興味を持って聞きに来てくれるのかとかそういうことについて話し合いをしたかったですけど、数字を並べられると、もうそういうのは全部飛んでしまいます。ボランティア総会を今年もぜひ開いて欲しいんですけど、みんなで話し合いができるような形で欲しいと思います。それから、私たちも毎月4回から6回ぐらい、お話し会してます。そのなかには読み聞かせと紙芝居とそれから語りをしてますが、本当に好きな子は、終わった後にいろいろ話しかけてくるんですね。私はそういう時間が一番大事だと思うんです。帰りに今日は楽しかったって言って帰ってくれるのが一番の喜びでボランティアを続けておりますけど、私たちも子どもたちにそういう楽しいお話し会が続けられる、届けられるような勉強をしなくちゃいけないと思っています。そのために、講習会とかいろいろあってボランティアの技能アップのための講習会をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

委員 PTAから出席させてもらってます。子どもの居場所づくりとして、図書館に行きたい子がいても行けないって、さっきもおっしゃられたようにそういう子ってたくさんいると思うんですよ。なので、図書館から移動図書で、うち城南町に住んでるんですけど、移動図書で時々来ていただくんですが、その延長みたいなことで各地区の公民館で読み聞かせとかがあると、子どもたちも本に親しむ機会が少し増えるのかなとも思うので、要望としてそういったのがあればいいなと思いました。あともう1点が、図書館を利用するときここも駐車場がやっぱりちょっと少し離れてるっていうことだと、城南図書館の館内を使うカートがあるんですけど、そういったカート、ここにちょっとあるのかわからないんですが、そのカートが、駐車場まで持っていけるとたくさん借りたときとかが、便利なのかなあと思いましたので、駐車場にもそのカート置き場があればいいのかなと思いました。どちらにしてもちょっと職員の方の負担にはなってしまうかと思うので、難しいとは思いますが希望です。

委員 アンケートの中に、調べ物の情報や本を探すお手伝いをするレファレンスサー

ビスが、挙がっているんですが、本を探す時に、本屋さんとかでは探すようなシステムがありますけど、どのような状況ですか。ちょっと借りて帰りたい人が早く探せると駐車場の回転も速くなるんじゃないかなと思います。読みたい本や資料をすぐに見せるような工夫ができればいいなと思ったところです。

事務局 読みたい本がすぐに見せるかということに対して、こちらの答えになっているかどうかちょっとわかりませんが、読みたい本が特定されるのであれば一応検索する機械っていうのは準備しております。ただ、たまたまこちらに来てここにあるかっていったらよその館にある場合もあります。予約していただければよその館から取り寄せすることも可能ですので、その図書資料が特定されるのであれば、見つけることは可能だと思います。

委員 ざっくりとこんな資料、こんな本が読みたいなという時に、いろいろ分類されているので、わかるようにしてあると思うんですけども、少しでも早く探せる仕組みがあるといいと思ったところです。

委員 言われますようにレファレンスのほうが、結構重要かと思います。どんなのが載っているのかという質問がよく一番出るのもその辺を充実して欲しいという意味かなと思います。

委員 先ほどもちょっと下で、絵本を借りたんですけど、絵本の並べ方は、書名と作家名と画家、3つありますけど、ここは画家の方をアルファベット順ですかね、並べてありますか。あいうえお順ですかね。あれは決まってるんでしょうか。書名がわかっているけど、探すのにとっても大変なんですね。

事務局 絵本は絵を中心にご覧になる方が多いということで、絵を描いた方を探される方がちょっと多いという今までの傾向がございましたので、こちらの本館のほうでは、絵を書いた方の五十音順で並べております。ただ「このほんよんで」とかですね、ちょっと別の並びにしている本については、絵本の署名の50音順で並べている本もございます。

委員 作画名とかというのは、ちょっとわからないんですよね。どういう配架になっているか。とにかく探すのが大変です。

委員 画家名で揃えるほうが多いですね、他の図書館とかでシリーズとかが揃うので、そうすると例えばタイトル順にしちゃうと、全然同じシリーズでも、タイトルが違うと全然別の場所になっちゃったりするので、画家名で揃えると例えばブルーナーの本、ブルーナーの絵本は全部ブルーナーの本で全部揃うとかっていうのがあるので、おそらく、割と画家名でしているところが多いかなと思います。

委員 今、ご説明いただいた熊本市立図書館の機能あり方についてということで、この施設というかこの建物という感じでお話いただいて、おそらく、委員の皆さん方もそういうイメージで、ご質問、ご意見をいただいたかなと思うんですけども、そもそも、熊本市の中核となる図書館というのが、この場所にあり続けるのかど

うか。例えば、さっきの駐車場の問題なんかもあって、例えばどこかの別の場所に移転する、そういった可能性があるのかないのか。或いは、以前もお話しましたが、例えば東区には図書館がないという状況で、今後、図書館を新設するとかってそういった考え方もあるのかないのか。そのあたり熊本市の図書館全体の今後の姿というような感じで、少し今考えられることについて、お話いただけないかなと思うんですがいかがでしょうか。

事務局 こちらのほうが昭和57年建設ということで43年たって、熊本市の公共施設マネジメントの考え方が、50年たって大規模改修をして70年使うとか、ここで現地建て替えるとかあるなかで、ちょうど今、熊本市本庁舎の移転という話も出ております。今後、本庁舎の跡地をどうするかという話のなかで、サウンディングということで業者の方に入ってもらって、新しい市役所の跡地にはこういった施設がふさわしいという選択肢に、ふれあいの場とか、図書館という話も多数ございました。もし、そういったところに行けば、利便性もより高まりますので、ただ、市民の方に求められている図書館が、ここにあるフルスペックの図書館なのか、おっしゃられているような今流行りの図書館なのかは、今のところわかりませんが、会議とかシンポジウムとかやっている中で、かなり図書館の話が出てきてるようです。図書館のあり方自体も、やっぱり変わってきているんだろうと思いますし、人の集う場所としての十分に魅力があると思います。そういう街中に行くチャンスがあれば、もともと昔はそちらにあったわけですので、個人的にはいいかなと思いますが、どちらにしろ、公共施設マネジメントの観点で、建て替えるときには2割程度の床面積を削らないといけないので、そこをどうクリアしていけるかというのを、知恵を出し合って頑張りたいと思っていますところでございます。

委員 ありがとうございます。非常に大きな話で、すぐにどうこうっていう館長からこうしたいっていうようなですね、お話がいただけるものではないと思うんですけども、ただやっぱりこういった大きな話で、熊本市の図書館全体をどうするかというようなレベルの話になるのかなと思いますので、ぜひそういったときには、図書館協議会の場もそうですし、或いはそれ以外のところでもいいんですがぜひ外部の方にも入っていただいて、幅広い意見を入れた上で検討していただくという、そういったやり方をとっていただければなと思いますので、よろしく願いいたします。

以上